



始



濠洲輸出貿易に就いて

株式会社 兼松商店 編

949
43

濠洲輸出貿易に就いて

~~濠洲事情解説輯~~

~~第15輯~~

昭和17年7月

株式會社兼松商店

94
43

678.27
K453



目 次

(一) 概 説.....(1)
(二) 原始産業と輸出.....(1)
(三) 輸 出 先.....(2)
(四) 輸 出 品.....(3)
(五) 主要仕向國別輸出内容.....(4)
(六) 東亞諸國への輸出.....(5)
(七) 貿 易 尻.....(7)
(八) 結 論.....(8)



949
43

濠洲輸出貿易に就いて

濠洲事情解説輯



株式 會社 林 商店

(一) 概 説

由來英國は濠洲を自國の食料品、工業原料品の供給地、及び工業製品の輸出市場たらしめんとして、對濠植民政策を實施し、濠洲の産業を指導して來た。濠洲自體としても、其の僅少なる人口と狹隘なる自國市場を對象として、歐洲式近代工業を興すことは不可能であつて、其の廣大なる土地、其の他農牧に適する自然的條件を利用して、農牧業の發展を計り、又地下鑛産資源の開發に努力して、餘剩物資を海外特に英國に輸出し、以て濠洲經濟の育成に努めたことは自由主義的世界經濟時代には頗る自然の過程であつたと云へよう。

かくて濠洲は農、牧、鑛業等の原始産業の生産物を輸出し、主として工業製品、半製品を輸入する原始産業國として發達して來た。

主要輸出品は(1)羊毛(2)小麦及小麦粉(3)金(4)バター及チーズ(5)肉類(6)皮類等であり、主要輸入品は(1)金屬、金屬製品、機械類(2)衣類、織物類(3)油類(4)紙、文房具類(5)藥品、化學藥品等である。(以上金額の順位)

(二) 原始産業と輸出

濠洲が原始産業國なることは、上述の通りであるが、今濠洲の原始産業が、全産業中如何なる地位を占むるか、原始産業の生産物が濠洲全輸出に於て如何なる重要性を有するか、並びにその海外市場に對する依存度を究明するには、次表を檢討するに如くはない。

産業別生産並びに輸出額
最近10年間(1928/9—1937/8年)平均

産業別	生産額	全生産額に對する比率	輸出額	全輸出額に對する比率	各産業別輸出額の生産額に對する比率
原始産業	單位千磅	%	單位千磅	%	%
農業	78,644	20.47	29,577	24.71	37.61
牧畜業	86,493	22.51	59,462	49.68	68.75
酪農業	46,441	12.08	10,819	9.04	23.30
鑛業	20,237	5.27	13,463	11.25	66.53

(1)

産業別	生産額	全生産額に 対する比率	輸出額	全輸出額に 対する比率	各産業別輸出額の生 産額に対する比率
	単位千磅	%	単位千磅	%	%
林業及漁業	10,608	2.76	1,295	1.08	12.21
合計	242,423	63.09	114,616	95.76	47.28
製造工業	141,826	36.91	5,079	4.24	3.58
總計	384,249	100.00	119,695	100.00	31.35

上表にて明らかなる如く、原始産業生産額は全産業生産額の63%を占め、農牧業生産額のみにて55%に達する。原始産業生産物の輸出額の總輸出額に対する比率は96%の高率を占め、農牧産品のみにて83%に上る。この数字は濠洲輸出貿易に於ける原始産業特に農牧業の重要性を示して餘りある。然しこの事實のみより直ちに濠洲を單なる農牧國と斷定することは早計であつて、第一次歐洲大戰以後特に最近に於ける濠洲製造工業は、軍需工業を中心として括目すべき躍進を遂げつゝある。船腹難に因る輸出の困難乃至は杜絶は農牧業の高率生産制限を餘儀無くせしめたであらう事と相俟つて、昨今に於ける製造工業生産額は恐らく原始産業生産額を遙かに凌駕するの域に達してゐる事であらう。

上掲統計中最後の欄は、各産業別の海外依存度を示すものであるが、製造工業の生産が殆んど全部國內需要に充當せらるゝに反し、原始産業はその生産の47%（農牧業のみにて同率となる）を海外市場に依存しつゝある。これは濠洲經濟の最も顯著なる特質であつて、我國によつてその海上交通を完全に遮斷せられんとしつゝある現在、濠洲原始産業特に農牧業の直面しつゝある苦惱は蓋し吾人の想像以上であらう。

(三) 輸 出 先

次に濠洲物産が如何なる方面に輸出せらるゝや、その仕向先を知る爲に、仕向國別輸出額及びその總輸出額に対する比率を求むれば次表を得る。

仕向國別輸出額及びその總輸出額に対する比率						
最近5年間(1934/5-1938/9年)平均、但し金を除く						
英 本 國	66,936,881	磅	52.23%	フ ラ ン ス	7,694,255	6.01
英 國 屬 領				ベ ル ギ ー	6,799,452	5.30
新 西 蘭	5,498,563		4.29	米 國	5,261,062	4.10
カ ナ ダ	1,911,106		1.49	ド イ ツ	3,081,696	2.40
マ レ ー	1,656,450		1.29	イ タ リ ー	2,174,393	1.70
印 度	1,147,919		0.90	支 那	1,612,608	1.26
其 の 他	5,550,854		4.33	蘭 領 東 印 度	1,336,965	1.04
英國屬領合計	15,764,892		12.30	和 蘭	1,185,945	0.93
英帝國合計	82,701,773		64.53	其 の 他	6,274,870	4.90
日 本	10,045,610		7.84			
					128,168,629	磅 100.00%

(2)

英本國及び屬領を含む英帝國への輸出額は約82,700,000磅に達し、總輸出額の約65%を占め、英本國のみにて輸出額約67,000,000磅52%の巨額に達し、濠洲輸出市場としての英本國の重要性、濠洲の對英依存度を最も明白に物語つてゐる。之を濠洲がその輸入の約60%を英帝國に、約40%を英本國に仰ぎつゝある事實と併せ考えると、濠洲と英本國との經濟的紐帶の如何に強固緊密なるやを知る事が出来る。

更に國別に觀れば壓倒的地位を保有する英本國に次ぐ重要市場は、日本、フランス、ベルギー、米國、ドイツ、イタリーの順位である。

最近の對日輸出は諸種の政治的經濟的理由により逐年減退の一路を辿りつゝあつたが、猶英本國に次いで世界第二の輸出市場たるの地位を保持したる事實は、一面濠洲に対する日本市場の重要性を明示すると共に、他面濠洲の物資が如何に日本經濟にとつて重要性を持つてゐるかを物語るものと云へよう。

英國屬領中では新西蘭、カナダ、マレー、印度等が重要輸出先であり、對新西蘭輸出が特に多額に達する。新西蘭への主要輸出品は、濠洲製造工業の製品であつて、將來濠洲製造工業の發展と共に、對新西蘭輸出は益々増加すべき趨勢にありと云ひ得る。

(四) 輸 出 品

濠洲の主要輸出品は、原始産業の生産物特に農牧産品なることは、既述せる處であるが、之を商品別に分類すれば次表を得る。

最近5年間(1934/5-1938/9年)平均

濠洲主要商品輸出額並びにその總輸出額に対する比率

1. 羊 毛	48,743,513	磅	35.25%
2. 小 麥 及 小 麥 粉	19,871,286		14.37
3. 金	11,911,737		8.61
4. バ タ ー 及 チ ー ーズ	10,987,703		7.95
5. 肉 類	10,391,492		7.51
6. 皮 類	6,014,388		4.35
7. 果 實	5,406,931		3.91
8. 鉛	4,057,412		2.93
9. 砂 糖	3,480,353		2.52
10. 各 種 精 選 鐵 石	1,564,667		1.13
11. 葡 萄 酒	943,800		
12. 亞 鉛	868,865		
13. 鵝 卵	867,719		
14. 銀	842,099		
15. ミルク及クリーム	807,356		
16. 木 材	741,467		
17. 牛 脂	702,541		

(3)

18.	大	麥	483,145	
19.	石	炭	310,425	
20.	眞	珠	286,086	
21.	錫		250,922	
22.	其	の	8,764,629	11.47
			138,298,537	100.00%

云ふ迄も無く、輸出品の王座を占むるものは羊毛であつて總輸出額の35%に上り、之に小麦及小麦粉を合すれば、輸出總額の約50%を占めてゐる。濠洲が「羊毛の國」と呼ばれ、羊毛小麦が濠洲經濟の二大支柱であり、この二大商品の輸出數量及び價額が濠洲の繁榮を左右すると云はれる所以も、容易に理解し得る處である。

金の輸出は第三位にあり、總輸出額の8.6%を占むるに過ぎないが、この金の發見こそ嘗て濠洲に多數の自由移民を吸引し、急激なる人口増加を齎して、濠洲の國家的發展の端緒を作つた歴史的産物である。

次いで酪農製品のパター及チーズ、畜産品の肉類、皮類が重要な地位を占め、果實、鉛、砂糖、各種精選鐵石等の輸出が之に次いで多額に上つてゐる。濠洲の資源も亦種類に富むと云へよう。

(五) 主要仕向國別輸出内容

最近5年間(1934/5—1938/9年)に於ける濠洲輸出品(金を除く)の十大仕向國は、英本國、日本、フランス、ベルギー、新西蘭、米國、ドイツ、イタリー、カナダ、英領マレーであるが是等諸國に對する輸出内容の概略を知る爲に、1937/8年度に於て、此等諸國へ輸出せられたる主要輸出品の金額、及び該商品輸出總額に對する比率を求むることとする。

勿論かかる數字を算出する場合には、5年或は10年の平均數字を求むべきなれども、計算の煩瑣なる爲、杜撰の譏を免れぬが、上述の如く1937/8年1年間の數字につき算出する。これについて次の如き特殊事情に留意する必要がある、即ち1937/8年中の日本、ベルギー、米國への商品の輸出額(金を含まず)は著減せるに反し、他の諸國への輸出は増加した點であつて、1937/8年に於ける上述十大仕向國への輸出額(金を含まず)の濠洲總輸出額に對する比率、及び1934/5—1938/9年5年間平均のそれとは次の如き差異がある。

	1937/8年	5年間平均		1937/8年	5年間平均
英本國	55.52%	52.23%	米國	2.39%	4.10%
日本	4.16	7.84	ドイツ	3.11	2.40
フランス	7.29	6.00	イタリー	1.87	1.70
ベルギー	4.01	5.30	カナダ	1.59	1.49
新西蘭	5.02	4.29	マレー	1.46	1.29

(4)

1937/8年に於ける仕向國別主要商品輸出額、及び該商品の濠洲總輸出額に對する比率(國名の次の金額は該國への總輸出額)

1. 英本國—86,360千磅			5. 新西蘭—7,110千磅		
羊毛	20,248	千磅 43%	金屬製品,機械類	2,150	千磅 23%
小麦及小麦粉	15,344	" 57"	小麦	917	" 4"
バター及チーズ	10,764	" 93"	衣類,織物類	512	" 94"
肉類	10,700	" 87"	木材	351	" 27"
金	7,700	" 48"	藥品,化學藥品	342	" 45"
鉛	4,679	" 95"	其他紙文房具,醫療科學器具,果實,ゴム及皮革,陶器,ガラス,石炭,煙草等		
果實	4,468	" 74"	6. 米國—10,860千磅		
砂糖	3,326	" 83"	金	7,473	千磅 47%
皮類	1,571	" 25"	皮類	1,478	" 24"
精選鐵石	1,090	" 48"	精選鐵石	588	" 26"
葡萄酒	862	" 91"	羊毛	409	" 1"
卵	697	" 99"	其他眞珠貝,鐵石等		
2. 日本—5,900千磅			7. ドイツ—4,410千磅		
羊毛	4,028	千磅 9%	羊毛	3,877	千磅 8%
小麦	699	" 3"	皮類	175	" 3"
皮類	325	" 5"	其他林檎,ユーカリ油等		
厨鐵	214	" 100"	8. イタリー—2,644千磅		
其他亞鉛,鉛,鐵,牛肉,牛脂,高麗貝,カゼイン等			羊毛	1,847	千磅 4"
3. フランス—11,056千磅			小麦	763	" 4"
羊毛	7,111	千磅 15%	其他牛脂,皮類等		
皮類	2,200	" 36"	9. カナダ—2,250千磅		
小麦	874	" 4"	砂糖	682	千磅 17%
金	733	" 5"	羊毛	572	" 1"
其他ウルフラム鐵,各種精選鐵石			果實	588	" 10"
4. ベルギー—5,686千磅			其他牛脂,バター,酒類,皮類等		
羊毛	4,783	千磅 10"	10. マレー—2,064千磅		
皮類	170	" 3"	小麦粉	634	千磅 11%
各種精選鐵石	353	" 15"	ミルク及クリーム	565	" 59"
其他小麦,鉛,果實,小麦,銅,ウルフラム鐵,木材等			其他金屬機械類,肉類,バター,酒類,果實等		

英本國市場の重要性は、既に指摘せる處であるが、上表によつて更にその認識を深め得るであらう。

(六) 東亞諸國への輸出

最近5年間(1934/5—1938/9年)平均東亞諸國(英領ボルネオ、ビルマ、セイロン、支那、佛領印度支那、香港、印度、日本、關東州、英領マレー、滿洲國、蘭領東印度、比島、タイ、

(5)

葡領チモール、印度に於ける佛及葡領)への輸出額は18,806,962ポンドであつて、同期間平均濠洲總輸出額142,188,087ポンドの13%に當り、英帝國屬領への輸出よりも稍々多く、その構成商品は次の如くである。

羊毛	7,992,290 磅	小兒及病人用食物	187,700
小麦及小麦粉	5,256,614	鞣革	147,931
バター及チーズ	644,475	木材	124,302
亜鉛	566,314	石炭	105,482
ミルク及クリーム	524,251	馬	103,704
肉類	353,451	鐵鑛	100,533
牛脂	216,820	其他商品	1,255,029
毛皮、獸蹄、角、骨及獸筋	199,826	輸出商品合計	18,163,607
册鐵	193,695	正貨及金銀地金	643,355
果實	191,193	輸出總額	18,806,962 磅

即ち羊毛(16%)、小麦及小麦粉(26%)、バター及チーズ(6%)、亜鉛(65%)、ミルク及クリーム(65%)、肉類(3%)、牛脂(30%)等が主要なるものである。(括弧内は東亞諸國への輸出額の濠洲總輸出額に對する比率)

次に最近5年間の國別輸出額の推移を見れば次の如くなる。

東亞諸國への國別商品輸出額(金を除く)

仕向國	1934/5年	1935/6年	1936/7年	1937/8年	1938/9年	平均
日本	£A 12,095,514	£A 17,661,232	£A 9,705,738	£A 5,900,093	£A 4,865,469	£A 10,045,610
英領マレー	1,315,822	1,263,526	1,727,956	2,063,740	1,911,007	1,656,410
支那	2,472,262	1,212,821	842,963	616,520	2,918,476	1,612,608
英領印度 ビルマ セイロン	961,832	1,301,206	1,468,432	1,467,340	2,247,598	1,489,282
葡領東印度	1,182,329	1,274,195	1,395,183	1,464,379	1,373,197	1,337,857
香港	715,994	624,663	803,010	1,048,833	475,099	733,520
滿洲國(註)	1,613,775	839,815	142,427	190,747	63,450	570,043
比島	324,053	553,311	666,733	619,504	498,893	532,499
タイ	58,660	100,959	118,291	117,382	119,494	102,957
其他	50,361	50,833	68,299	103,267	81,778	70,908
合計	£A 20,790,602	£A 24,882,561	£A 16,939,032	£A 13,591,810	£A 14,554,461	£A 18,151,694

(註) 關東州を含む

對日輸出額は東亞諸國への總輸出額の55%を占め、日本は東亞に於ける濠洲の最大の顧客であつた。之に次ぐものは英領マレー、支那、英領印度、ビルマ、セイロン、葡領東印度等であるが輸出額は何れも少額で日本とは比較すべくもない。

對日輸出は羊毛、小麦、皮革等を主とするが、その輸出額は1935/6年を絶頂として、爾來逐年減退した。これは世人の記憶にも猶新なる如く、1936年(昭和11年)5月、濠洲政府が突如として發表した所謂「貿易轉換政策」に基づく、日本織物に對する禁止的輸入税の賦課、

(6)

これを導火線として惹起せられた日濠通商戰、その結末たる日濠間暫定通商協定に規定せられたる日濠貿易の量的制限、並びに日支事變勃發による日本の輸入制限等一連の人為的諸理由に因るものである。

英領マレーへの主要輸出品は食料品で、特に多額に上るものは小麦粉、ミルク及クリームである。近年英領マレーへの輸出は着實な増加の傾向にあつた。

對支輸出も食料品を主とし、小麦及小麦粉が獨占的地位を占め、對支輸出の消長は懸つて是等二商品輸出の増減にあつた。

英領印度への輸出品は金屬、各種食料品、羊毛等であり、セイロンへは食料品が多く、小麦粉、ミルク及クリーム、バター等が頭角を表してゐる。

葡領東印度への輸出もその殆んど全部が食料品であつて、小麦粉及びバターが壓制的多額を占めてゐる。

香港への輸出品で相當多額に上つたものは小麦粉、鞣革、バター、白糖である。

上記せる處にて明らかな如く、東亞諸國中濠洲工業原料品を多額に輸入しつゝあつたのは日本のみであつて他の諸國は主として食料品を輸入しつゝあつた。この事實は將來是等諸國との交易上留意すべき點であらう。

(七) 貿易尻

1826年から1925/6年迄(註参照)の5年間を1期とせる年平均輸出入額(金を含む)、及び1928/9年から1938/9年に至る各會計年度の輸出入額(金を含む)につきて見るに1886/90年までの13期(65年間)は、2期(10年間)の例外を除き、常に輸入超過であつた。然るに1891/5年以後1920/1年までの6期(30年間)は、貿易尻は一轉して輸出超過に變じた、之に次ぐ1期(5年間)及び1928/9年及び1929/30年は再び輸入超過に轉じ、爾來1938/9年迄の9年間は輸出超過となり、その超過額は巨額に達した。

之を要約すれば、濠洲の貿易尻は若干の例外はあるけれども、その開拓時代に於ては輸入超過を示し、各般の産業が發達せる今世紀に入りては、輸出超過に轉じたと、概言し得るであらう。

(註) 1914年7月1日以降貿易統計は會計年度(7月—6月)による。それ以前は歷年度による。

最近5年間の總輸出入額(金を含む)は下表の通り。

年 度	輸 入 額	輸 出 額	輸出額の輸入額に對する比率
1934/5	74,119千英磅	90,654千英磅	122.3 %
1935/6	85,253 "	109,372 "	128.3 "
1936/7	92,641 "	129,664 "	140.0 "
1937/8	113,975 "	125,838 "	110.4 "
1938/9	102,156 "	112,202 "	109.8 "

(7)

(八) 結 論

既述の如く、濠洲の經濟力は其の原始産業の生産物を海外市場へ輸出することによりて培養せられ、特に英本國といふ一特定市場に依存せざるを得なかつた。これは濠洲産業の發達上必然的であつたと云へ、一大脆弱點であつた事は蓋ふ事の出來ぬ事實である。其の輸出の生命線である英本國への貿易路を遮断せられた今日、同國の主要原始産業は勿論經濟全般が蒙る打撃は、蓋し相像に餘りある所であり、販路を失つた諸産業の生産力は當然に低下せられつゝある事であらう。

濠洲現在の原始産業の原動力が海外市場への輸出にある以上、之を將來共に保持して行くには、其の諸生産品の販路を目先東亞共榮圏内の諸市場に又近き將來には樞軸國の諸市場にも求むる外はないが是等諸市場への輸送力は茲當分充分なるを望み得ず、又假令輸送力が回復しても、其の需要する商品並びに數量は、英本國中心時代とは頗る異なるものがある故、從來の諸産業の内消長は免れぬ所である。

濠洲の東亞共榮圏の一環としての價値を、今日迄の如く、其農牧業產品の豊富なる輸出力にのみあるとするならば、判斷を誤るものである。寧ろ新時代が要望し、且現在既に發達しつつある同國の地下資源の開發、鐵、鉛、亞鉛、銅の製産、其の他オスミリヂウム、タングステン、タングライトの如き稀有金屬の採鑛によつて、本邦工業力に寄與協力せしめ、又漁業の如きも南極捕鯨の基地として鯨油の輸出地とするが如く、漸次指導育成し行くべきで、この爲假令羊毛、小麥、牛肉、羊肉、皮革、酪農製品を主流とする農牧產品の輸出が市場の狹隘化により低下することも已むを得ない所であらう。

元來濠洲は地理的に東亞に屬するものであつて、濠洲東亞間の通商貿易は必然的により發展すべき運命にあつたのである。然るに濠洲が地理的必然性を無視して、對英偏重の貿易政策を採つて來た爲に、更により根本的には、歐米の東亞支配とその飽く無き搾取が、日本を除く東亞民族の生活を奴隸化し、その購買力を向上せしめなかつた爲に必然的發展を阻害せられつゝあつたのである。

今や濠洲はその好むと好まざるとに拘らず、過去の總てを清算し、東亞共榮圏の一環として、衣料品、食料品その他工業原料品の供給地として、或は又東亞民族の安住の地として重大なる使命を果すべき時期に刻々と近づきつつあるのである。

(禁 無 断 轉 載)

昭和 17 年 7 月 28 日 印 刷
昭和 17 年 7 月 31 日 發 行

編 輯 兼 發 行 者 三 浦 五 郎

東京市麹町區丸ノ内2丁目2番地

印 刷 者 松 野 俊 夫

東京市豊島區巢鴨1丁目3番地

印 刷 所 (20%) 禮 改 洋 社

東京市豊島區巢鴨1丁目3番地

發 行 所 禮 改 松 商 店

東京市麹町區丸ノ内2丁目2番地

(非 賣 品)

昭和十七年七月二十八日印刷
昭和十七年七月三十一日發行
三浦五郎

(八) 結 論

既述の如く、濠洲の經濟力は其の原始産業の生産物を海外市場へ輸出することによりて培養せられ、特に英本國といふ一特定市場に依存せざるを得なかつた。これは濠洲産業の發達上必然的であつたと云へ、一大脆弱點であつた事は蓋ふ事の出來ぬ事實である。其の輸出の生命線である英本國への貿易路を遮斷せられた今日、同國の主要原始産業は勿論經濟全般が蒙る打撃は、蓋し相像に餘りある所であり、販路を失つた諸産業の生産力は當然に低下せられつゝある事であらう。

濠洲現在の原始産業の原動力が海外市場への輸出にある以上、之を將來共に保持して行くには、其の諸生産品の販路を目先東亞共榮圈内の諸市場に又近き將來には樞軸國の諸市場にも求むる外はないが是等諸市場への輸送力は茲當分充分なるを望み得ず、又假令輸送力が回復しても、其の需要する商品並びに數量は、英本國中心時代とは頗る異なるものがある故、從來の諸産業の内消長は免れぬ所である。

濠洲の東亞共榮圏の一環としての價値を、今日迄の如く、其農牧業產品の豊富なる輸出力にのみあるとするならば、判斷を誤るものである。寧ろ新時代が要望し、且現在既に發達しつつある同國の地下資源の開發、鐵、鉛、亜鉛、銅の製産、其の他オスミリヂウム、タングステン、タントライトの如き稀有金屬の採鑛によつて、本邦工業力に寄與協力せしめ、又漁業の如きも南極捕鯨の基地として鯨油の輸出地とするが如く、漸次指導育成し行くべきで、この爲假令羊毛、小麥、牛肉、羊肉、皮革、酪農製品を主流とする農牧產品の輸出が市場の狹隘化により低下することも已むを得ない所であらう。

元來濠洲は地理的に東亞に屬するものであつて、濠洲東亞間の通商貿易は必然的により發展すべき運命にあつたのである。然るに濠洲が地理的必然性を無視して、對英偏重の貿易政策を採つて來た爲に、更により根本的には、歐米の東亞支配とその飽く無き搾取が、日本を除く東亞民族の生活を奴隸化し、その購買力を向上せしめなかつた爲に必然的發展を阻害せられつゝあつたのである。

今や濠洲はその好むと好まざるとに拘らず、過去の總てを清算し、東亞共榮圏の一環として、衣料品、食料品その他工業原料品の供給地として、或は又東亞民族の安住の地として重大なる使命を果すべき時期に刻々と近づきつつあるのである。

製 本 控

949	四	43	號	年	月	日
濠洲輸出入貿易の款目						
申						

備 考

(禁) 昭和 17 年 7 月 28 日 印
昭和 17 年 7 月 31 日 發

備 考
印
印
發

(非 賣 品)

949
43

678. 27-Ka53ウ



1200500750591

67827
k.53

終